

九州女子大学  
家政学部 人間生活学科

令和3年度  
社会人選抜Ⅱ期  
編入学選抜Ⅱ期  
社会人編入学選抜Ⅱ期  
帰国子女選抜  
外国人留学生選抜  
外国人留学生編入学選抜

小論文

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

社会人選抜	期
編入学選抜	期
社会人編入学選抜	期
帰国子女選抜	
外国人留学生選抜	
外国人留学生編入学選抜	
令和三年度	小論文 試験問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

きょうは海の日である。なぎさや波を描いたあまたの(ア)詩歌のなかでも、島崎藤村の「椰子の実」には独特のロマンがある。(名も知らぬ遠き島より／流れ寄る椰子の実一つ／故郷の岸を離れて／(X)汝はそも波に幾月)。

海は、遠い世界とつながっている。流れ着いた椰子の実がもといた場所に、藤村は思いをさせる。(旧の樹は生ひや茂れる／枝はなほ影をやなせる)。浜辺に立ち、(イ)海原のあなたを思う。誰にでもある夏の日の記憶であろう。

海に線は引けない。そんなことを最近強く感じさせるのは、残念ながら椰子の実ではなく、プラスチックかもしれない。世界の海に流れ出す量は増える一方で、2050年までに世界中の魚の総重量を上回るとの試算もある。国を超えた(A)タイサクが迫られている。

先日訪れたドイツではスーパーからレジ袋が消えていた。品物をそのまま渡され、袋がほしいと言うと有料の紙袋が出てきた。国連機関によると、1人当たりの使い捨てプラスチックの発生量は米国が1位、日本は2位。日米は後れを取っているようだ。

買い物や外食のときに、旅行先や故郷で見た青い海を思い浮かべてみる。レジ袋でもストローでも「いりません」と口にしやすいかもしれない。いやむしろ、死んだクジラのおなかから出てきた大量のプラごみを思い起すべきか。

藤村の詩は日没の情景へと続く。(海の日の沈むを見れば／激り落つ異郷の涙)。海洋汚染がもたらす涙がある。涙を(B)ヌグうために、できることがある。

「天声人語」『朝日新聞』(二〇一九年七月一五日付け朝刊)

問一 傍線部(A)(B)のカタカナを漢字に直しなさい。また、傍線部(ア)(イ)の漢字の読みを書きなさい。

問二 傍線部(X)の「汝は」とは何を指しているのか文中の言葉を用いて解答欄に書きなさい(八文字以内)。また、島崎藤村の小説を一つ解答欄に書きなさい。

問三 文章をふまえて、あなたの「プラスチックごみ」への気付きについて述べなさい。ただし、句読点を一字に数える(四〇〇〇〜五〇〇〇字)。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

令和三年度

社会人選抜期  
社会人編入学選抜期  
編入学選抜期  
帰国子女選抜  
外国人留学生選抜  
外国人留学生編入学選抜

小論文 解答用紙

問一 漢字問題

(A)

(B)

(7)

(4)

受験番号

氏名

問二 汝とは

小説名

問三 縦書き

5

10

15

20

25

Grid for vertical writing

500

400

300

200

100

得点

